



# 復興大学 災害ボランティアステーション

## 復興大学災害ボランティアステーションとは

復興大学は、東日本大震災後、仙台学長会議が復興の担い手となる青年に対して大学などの高等教育機関ができることは何かを問い、学都仙台コンソーシアムで実施案を立案し、平成23年からスタートしました。人材育成・教育復興支援・企業支援・ボランティア支援の4事業を柱に、この地の復興・地域活性化を目指します。

東北学院大学は、ボランティア支援事業（復興大学災害ボランティアステーション事業）の幹事大学であり、宮城の創造的復興を担う人材を育成する一環の事業として、学生ボランティアを持続可能な社会資源として高めていくこととし、主に以下の二つの目的に寄与するために取り組んでいます。

1. 復興への大きな課題として位置づけられるコミュニティ再生支援にかかわる学生ボランティアの育成に貢献すること
2. 震災を契機に現在まで動いてきた大学間連携ボランティアネットワークを礎に、宮城の震災復興にかかわる学生ボランティア活動の取り組みを、県外の地域に共有・伝承すること



## 復興大学災害ボランティアステーションの主な事業内容

### 1 大学間連携災害復興ボランティア活動（4月～3月の通年）

年間を通しての県内におけるボランティア活動で、学都仙台コンソーシアム加盟大学学生間の協働ボランティア活動。

（活動地域は、石巻市、岩沼市、気仙沼市、七ヶ浜町、名取市、山元町など）



### 2 大学間連携災害復興ボランティア・夏ボラ活動（8月～9月）

夏季集中ボランティア・合宿形式の協働ボランティア活動。学都仙台コンソーシアム加盟大学と大学間連携災害ボランティアネットワーク参加大学を対象として活動を行う。

（活動地域は、石巻市、気仙沼市、山元町など計4クールを予定）

2

### 3 大学間連携災害復興ボランティアスタディツアー（9月～12月）

ボランティア活動に参加するきっかけとして、語り部プログラムや現地の方々の交流を含めたプログラムのスタディツアーを行う。

（実施地域は石巻市などを予定）

3



### 4 大学間連携災害ボランティアシンポジウム（12月）

学都仙台コンソーシアム加盟大学と大学間連携災害ボランティアネットワーク参加大学を主な参加対象として開催。全国の学生ボランティア活動取組の共有を行う学生間交流プラス、学生ボランティアの意義を高めていくなプログラムを行う。（東北学院大学で開催予定）

4

### 5 みやぎ招へいプログラム（10月～12月）

兵庫県と熊本県の大学生を宮城に招へいし、宮城の復興経験を学ぶ機会を提供する。以下の大きな二つの具体的な目的に寄与する。

・宮城と神戸と熊本の学生ボランティアが交流し、親交を深める機会として、今後の連携づくりの機会とする。

・大きな震災を経験した地域の若者が互いを刺激し合い、助け合うことで今後の復興及びまちづくりの担い手づくりの機会とする。

5

